

第 35 回スパズム・シンポジウム世話人会議事録

日 時：平成 31 年 3 月 21 日（木）7：00～

会 場：パシフィコ横浜 会議センター

5 階 511・512 会議室

出席者：30 名

【報告事項】

1. 第 35 回会長挨拶

石川 達哉 先生（秋田県立脳血管研究センター）より挨拶があった。

2. 事務局報告（岡山大学 菱川 朋人）

会員状況報告・会計報告があり、承認された。

会員数・会費納入率について大幅な減少等はなく例年通り推移している。

収支についてはここ数年、増加傾向にある。

収入の部においては、「第 34 回スパズム・シンポジウム(STROKE2018)」より補助金 50 万円の返還があった。

3. 第 34 回開催報告

第 34 回会長 佐々木 達也 先生（東北医科薬科大学）より開催報告があり、承認された。第 34 回も収支決算報告については、脳卒中：脳卒中の外科学会&スパズム・シンポジウムで 5：5 の割合で予算計上されたことを説明。

開催内容と予算の面、ともに順調に終了したことが報告された。

4. 世話人退任 — 新顧問への就任

松居 徹 先生（埼玉医科大学総合医療センター）が新顧問として承認された。

5. 次期会長挨拶

第 36 回会長 鈴木 秀謙 先生（三重大学）より挨拶があった。

Stroke 2020 全体は、2020 年 3 月 26 日（木）、27 日（金）、28 日（土）横浜にて開催。

全体の共通テーマは、「脳卒中 力をひとつに Unity in Diversity」。スパズム・シンポジウムとしてのサブテーマは「スパズムの多様性と可能性」。例年通り、1 日目をスパズム・シンポジウムにあてる。

引き続き、鈴木 秀謙 先生より、第 36 回の企画についての提言があった。

「応募された演題を学会毎に区分けせず、テーマ毎に統合してプログラムを組む」— スパズム・シンポジウムの会員・非会員に関わらず脳卒中学会や脳卒中の外科学会に応募

されたスパズム関連の演題の1部または全てをスパズム・シンポジウムで発表していただく可能性がある—

「学会発表」を受験資格とする場合、会員の不利益が生じないかとの懸念の声が上がったが、日本脳卒中学会専門医・日本脳卒中の外科学会技術認定医の受験資格要件の説明があり、現時点では問題は発生しない旨が明らかにされた。

また、Stroke2020プログラム上では演題応募の際、3つの学会の内どの学会に応募したのかがわかる様に（つまりオリジナルの応募先がわかるように）明記することが述べられた。

上記案件は会員にとって重要な問題であることを考慮し、代表世話人 伊達 勲より、日本脳卒中学会の宮本 享 理事長、日本脳卒中の外科学会の富永悌二 理事長（Stroke 2019 後は岩間 亨 理事長）へ認識の確認を行うこととなった。（後日、Stroke 2020 の3会長から、3学会の理事長に本件の確認の手紙が来た。）

6. 次々期会長挨拶

第37回会長 岩渕 聡 先生（東邦大学）より挨拶があった。

2021年3月11日（木）、12日（金）、13日（土）福岡にて開催。

共通テーマは「脳卒中制覇～さらなる頂へ～」。

7. 第10回スパズム・シンポジウム優秀論文賞について

第10回優秀論文賞の選考委員、受賞論文の報告が行われた。

基礎研究部門は、西川 拓文（にしかわ ひろふみ）先生（三重大学）、臨床研究部門は、杉本 至健（すぎもと かづたか）先生（山口大学）に決定したことを報告した。

8. 将来構想委員会 メンバー交替の件

会則第7条に基づき、以下5名が2019年度のメンバーとして賛同を得られ、決定した。

- ・前期会長 : 石川 達哉 先生
- ・今期会長 : 鈴木 秀謙 先生
- ・次期会長 : 岩渕 聡 先生
- ・事務局代表 : 伊達 勲
- ・選出メンバー : 大熊 洋揮 先生

【審議事項】

1. 新世話人選出

推薦状、略歴・業績の回覧の後、吉川 雄一郎 先生（埼玉医科大学国際医療センター）、庄島 正明 先生（埼玉医科大学総合医療センター）、杉山 拓 先生（北海道大学）の

3名が新世話人として推薦され、承認された。

2. 次々々期会長選考

事務局代表 伊達 勲より、第38回会長について事前に将来構想委員会メンバーにて協議した結果、森岡 基浩 先生（久留米大学）を推薦することを報告、本会にて承認された。

3. 「脳血管攣縮」の査読制度について

事務局代表 伊達 勲より提案。

機関誌「脳血管攣縮」の査読制度への移行案につき経緯の説明。

引き続き、投稿規定の一部変更、編集委員会構成メンバーについての次の案が述べられ、承認を得た。

投稿規定：「4. 論文の採否は 編集委員会で査読を行った上で決定します。」と変更。

編集委員長 当期会長（2019年は石川達哉先生）

編集副委員長 前期会長（2019年は佐々木達也先生）、次期会長（2019年は鈴木秀謙先生）

編集委員 その他の世話人全員

また、「論文投稿先」については今後、編集委員長（当期会長）宛とし、前述決議事項と共にホームページ上および「脳血管攣縮」誌上へ明記することとなった。

4. 「優秀論文賞」の応募資格について

事務局代表 伊達 勲より変更案を提示。

昨今の現状を考慮し、on line publication のみの発表論文も候補論文とすること、また候補論文の掲載の時期については、これまでも応募者と事務局との間で見解の相違が生じていたため、今後は「Epubの時点（最初の公表の段階）」で印刷を待たずに、候補論文となり得ることを提案。承認を得た。

併せて「英文誌」には「査読付きの」と条件を付すこととなった。

なお、改定後の「優秀論文賞」応募資格は、事務局よりホームページ上にて公表を行うこととした。

以上